

【台東区】 胃がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく胃がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (胃部X線検査)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	55,015	54,519	109,534
【東京都調査による対象者率(区部): 60.5%】			
実際の受診者数	1,191	1,807	2,998

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

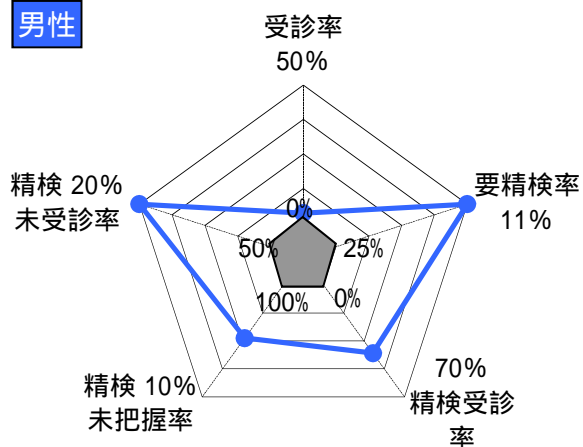
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	一部該当

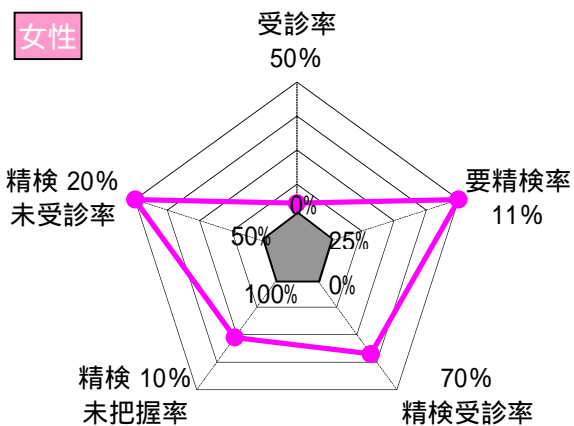
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	3.6%	5.5%	4.5%
要精検率	11%以下	9.1%	3.0%	5.4%
精検受診率	70%以上	42.6%	47.3%	44.2%
精検未把握率	10%以下	57.4%	52.7%	55.8%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.0%以上	1.9%	1.8%	1.8%
がん発見率	0.11%以上	0.17%	0.06%	0.10%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【台東区】 肺がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく肺がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (胸部X線検査及び喀痰細胞診)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	55,015	54,519	109,534
【東京都調査による対象者率(区部): 66.6%】			
実際の受診者数	515	510	1,025

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

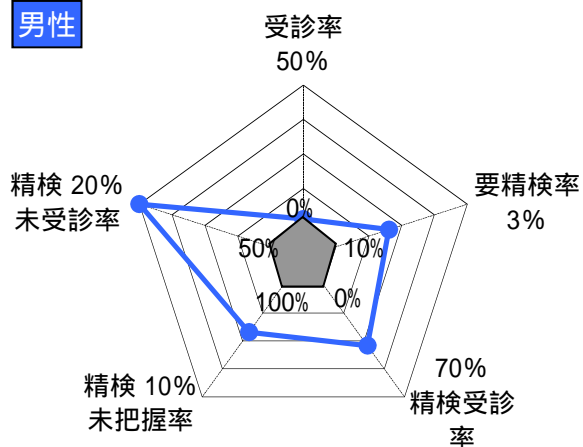
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	一部該当

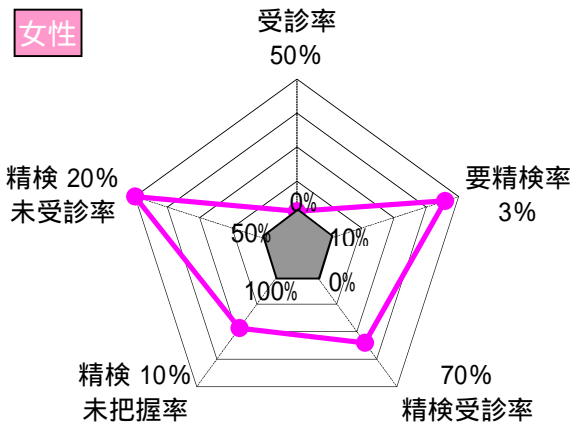
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	1.4%	1.4%	1.4%
要精検率	3%以下	7.2%	3.7%	5.5%
精検受診率	70%以上	37.8%	42.1%	39.3%
精検未把握率	10%以下	62.2%	57.9%	60.7%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.3%以上	0.0%	10.5%	3.6%
がん発見率	0.03%以上	0.00%	0.39%	0.20%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【台東区】大腸がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況>

対象年齢(40歳以上)	している
検査方法(便潜血検査(二日法))	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	55,015	54,519	109,534
【東京都調査による対象者率(区部): 66.3%】			
実際の受診者数	7,832	11,831	19,663

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

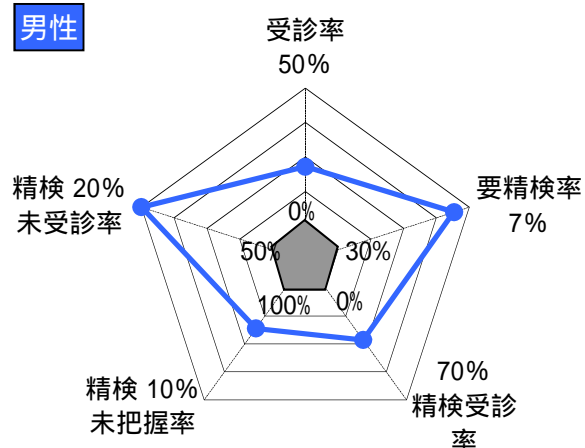
<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	一部該当

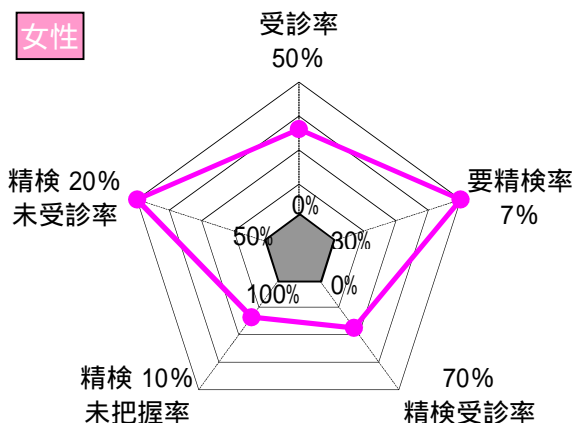
<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	21.5%	32.7%	27.1%
要精検率	7%以下	9.7%	6.9%	8.0%
精検受診率	70%以上	32.5%	30.7%	31.6%
精検未把握率	10%以下	67.5%	69.3%	68.4%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.9%以上	2.2%	1.5%	1.8%
がん発見率	0.13%以上	0.22%	0.10%	0.15%

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【台東区】子宮頸がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況 >

対象年齢 (20歳以上:隔年)	している
検査方法 (細胞診)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		80,565	
【東京都調査による対象者率(区部): 63.7%】			
実際の受診者数		6,819	

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

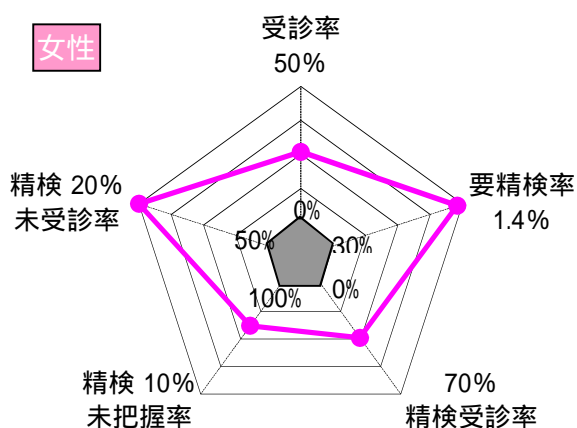
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	していない

< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		25.9%	
要精検率	1.4%以下		2.6%	
精検受診率	70%以上		34.3%	
精検未把握率	10%以下		65.7%	
精検未受診率	20%以下		0.0%	
陽性反応適中度	4.0%以上		1.1%	
がん発見率	0.05%以上		0.03%	

【評価結果】



< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【 台東区 】 乳がん検診 プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく乳がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上:隔年)	している
検査方法 (視触診及びマンモグラフィ)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		54,519	
【東京都調査による対象者率(区部): 72.3%】			
実際の受診者数		5,500	

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

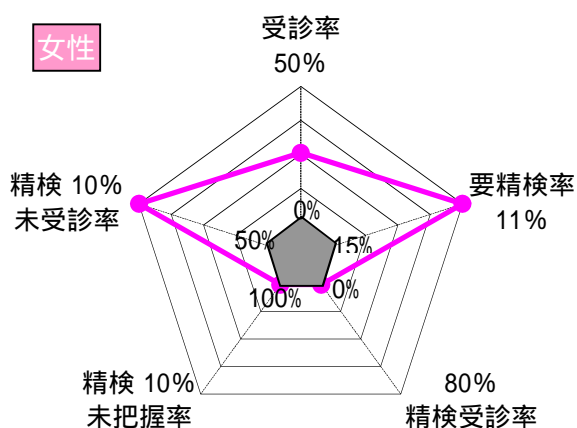
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	していない

< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		25.6%	
要精検率	11%以下		6.7%	
精検受診率	80%以上		0.5%	
精検未把握率	10%以下		99.5%	
精検未受診率	10%以下		0.0%	
陽性反応適中度	2.5%以上		0.5%	
がん発見率	0.23%以上		0.04%	

【評価結果】



< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。